

会 議 録

会議の名称	第1回 佐渡市地方創生総合戦略策定・推進会議
開催日時	平成 27 年 4 月 24 日（金） 15 時 00 分 開会 16 時 00 分 閉会
場所	佐渡市役所 大会議室
議題	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 座長選出</p> <p>4 議題</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 意見交換</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) その他</p> <p>5 閉会</p>
会議の公開・非公開	非公開
出席者	別紙出席者名簿のとおり
会議資料	<p>資料No. 1 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像</p> <p>資料No. 2 地方への多様な支援と「切れ目」のない施策の展開</p> <p>資料No. 3 地方版総合戦略における PDCA サイクルの基本的考え方</p> <p>資料No. 4 佐渡版まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子素案）</p> <p>資料No. 5 平成 27 年度施策体系</p> <p>資料No. 6 地域活性化・地域住民等緊急支援交付金事業一覧</p> <p>（※ その他非公開資料 資料No. 7 あり）</p>

会議の概要（発言の要旨）

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果 等
市 長	<p>2 市長あいさつ</p> <p>佐渡市では最重点施策として、人口減少対策に取り組んできたところであるが、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、地方版の「総合戦略」の策定が努力義務とされた。</p> <p>これを受け、2月に庁内組織を立ち上げたところであるが、それだけでは不十分であり、本会議で皆さんのご意見をお聴きして、佐渡版の総合戦略を策定していきたい。</p> <p>個別の政策についてであるが、「何故佐渡に帰って来ないのか？」を分析しないと、（他自治体と同様な）「金太郎飴」の施策になってしまう。現在考えている人口対策は「人口減少対策（積極戦略）」として、自然減を止めることは難しいが、社会減をいかに止めるかということ、「人口減少影響対策（調整戦略）」として、経済的に佐渡で生活できるよう産業の振興を図ることである。</p> <p>また、他自治体との分担ということで、人口集中都市との連携を推進していくことを考えており、具体的には荒川区との間で話が進んでいる。</p> <p>佐渡は離島ということもあり、他自治体と同様の結婚、教育の施策だけではだめであり、その先の就職までを視野に入れた施策を考えていかなければならない。そのためにも、皆さんのお力をお借りしたい。</p>
事務局	<p>3 座長選出</p> <p>参加者の互選により、新潟大学人文学部の池田哲夫教授を座長に選出</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）について（資料に基づき説明）</p> <p>(2) 意見交換</p>
参加者	<p>資料No.5は「平成27年度施策体系」となっており、各施策が書かれているがこれは佐渡市独自のものか。それとも新潟県から、指導等があったものなのか。</p>

事務局	佐渡市独自の施策である。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ① 緊急支援交付金事業の、プレミアム宿泊券、商品券事業が永年事業となるのか。 ② 宿泊券の購入については、電話予約等簡単な購入方法も考えて欲しかった。 ③ 佐渡汽船の料金については、「早期割引」制度等、他の制度についても取入れて欲しい。 ④ 地方創生は、農業については支援があるものの、林業に関しては余りないのではないか。また、地方創生には、バイオマスに関することを盛り込んでもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ① 緊急支援的な事業であるので、ご理解をいただきたい。 ② 今回については、(事業の性格上) 緊急性を重視したこともある。ご理解をいただきたい。 ③ 佐渡汽船の料金については、一過性のものとならないようにしたい。「乗用車航送割引」については、社会実験により、効果を実証し、運賃の低減化を図りたい。 ④ 林業については、この会議でいただいた意見を反映させたい。バイオマスについては、形態が様々であり、どのように実施していけば良いか検討したい。
参加者	<p>若者の就業対策は非常に重要なことである。</p> <p>その中で、インターンシップの具体的内容を知りたい。</p>
事務局	<p>インターンシップ支援としては、東京からの交通費及び宿泊費の支給をしていたところであるが、今回の事業では奨励金として、高校卒に 30,000 円、大学卒に 50,000 円支給することとした。</p>
参加者	<p>地方創生は全国の他の市町村との差別化を図り、佐渡ならではのコンセプトを考えるべき。</p> <p>自然界でのトキが定着しつつあるが、やはり「人と自然が共生できる島」をコンセプトとして考えていくのが良いのではないか。</p> <p>佐渡の基幹産業である観光振興も、この「人と自然が共生できる島」をコンセプトとして戦略を考えていくべきではないか。</p>
事務局	<p>コンセプトを明示することにより、観光振興を図っていきたい。</p>

参加者	<p>策定スケジュールが10月末とのことだが、最終的な予算規模はどれくらいになるのか。</p>
事務局	<p>はっきりしたことが国からは示されていないが、本年度については、上乘せ交付金として先駆的な団体に対して1団体当たり約6千万円の交付が予定されている。来年度については、本年度並みの想定となるのではないかと考えている。</p>
参加者	<p>交付金事業について、島内の受入体制はどのようになっているのか。例えば、観光、インターンシップ、退職者の受入れについて。また、人の教育についてどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>受入体制の構築については、総合政策課がワンストップで調整できれば良いのだが、うまく機能していない。</p> <p>UIJ ターンについてであるが、市の地域振興課のみの対応ではなく、今年度からは「移住コンシェルジュ」制度を始めた。また、地域おこし協力隊の方にも（UIJ ターン者の）支援をいただいている。今後も連携を深めていきたい。</p>
参加者	<p>いくつか意見等述べたい。</p> <p>職業の専門学校を設立すべき。 例えば、「生物生産学科」、「エンジニアリング学科」等</p> <p>郷土愛を育むことは大切なことであり、小中学校のボランティアガイド活動は効果がある。</p> <p>例えば、高等学校の生徒に対し、（大学卒業後帰島するなどの）一定の条件を付けた上で、貸与型ではなく給付型の奨学金を支給することを考えてもよい。</p> <p>観光面で即効性のある施策は「国際空港」の建設であると思う。定期便だけではなく、プライベートの利用もできるように。</p> <p>空港については、東京と1時間でつながるということであれば、経済の活性化も見込める。</p>

<p>参加者</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>自然豊かな土地に「高級老人ホーム」を建設するのも良い。</p> <p>栗島での「しおかぜ留学」のように、佐渡で学びたい子どもの受入を。</p> <p>せっかく各団体から参加していただいているので、次回からは事前に各団体の意見を募り、事務局で集約する等してほしい。</p> <p>次回については、そのような形で行いたい。</p> <p>(3) その他</p> <p>開催については、5月22日（金）としたい。</p> <p>5 閉会</p>
<p>その他</p>	